

『患者や家族の生活に寄り添う あたたかな看護を届けたい』

しばた けいこ
訪問看護ステーションふれんず 所長 柴田 恵子 氏



インタビュー企画第12弾。今回は、在宅医療の現場で医師の指示のもと、医療処置や体調管理など医療的ケアを行う訪問看護師 柴田恵子さんに、そのお仕事の内容や、在宅療養、在宅看取りに対する思いなどについてお話を伺いました。【取材時 平成31年3月13日（水）】

*インタビューは、彦根医療福祉推進センター所長（取材時）日村好宏氏です。

柴田 恵子（しばた けいこ）氏

看護師

特定非営利法人「道」理事長

地域包括ケアステーション 森のお家

訪問看護ステーションふれんず 所長

母の願いを知り 看護師の道へ

日村氏「現在、柴田さんは訪問看護ステーションふれんずの所長としてご活躍をされていますが、柴田さんが看護師という職を志したきっかけや看護師になられてからの経緯など教えていただけますか？」

柴田氏「私自身が看護師になりたいと思ったのは、小学生の頃です。私の母はよく『看護師になりたかった』と話していて、そんな母の思いをずっと聞いている中で、看護師を目指すようになりました。

念願の看護師になり、長く病院で仕事をしていたのですが、緩和ケア病棟等で仕事をする中で、一人の患者さんや家族に深く関わるといことがどれだけ大切なことか、また、そのことを看護師が行うことの大事さを痛感し、地域でのケアや看護をしていきたいと思い、訪問看護師となり十数年が経過しました。

現在、訪問看護を含め、地域包括ケアステーション『森のお家』での3つの事業を行っています。」

<地域包括ケアステーション「森のお家」>

◎訪問看護ステーション ふれんず

◎多機能型重症児等デイサービス ふぁみりい

◎特定相談支援・障害児相談支援 ちゃれんじ

*ホームページ www.hikone-morino-ouchi.or.jp/

訪問看護師のある一日 iPadを活用しながら

日村氏「では、実際に訪問看護師の一日のお仕事の様子（動き）について教えていただけますか？」

柴田氏「訪問看護ステーションふれんずでは、朝9時から仕事が始まります。仕事の始まりは、スタッフミーティングです。前日までに変化があった方のことやその日訪問する方のケアの工夫、今後予測される状態の変化や、主治医やケアマネジャー等他職種との連携をどうしていくかなどについても話し合います。その後、皆訪問に出かけます。大体訪問看護師一人当たり1日に約6名のお家をお一人につき30分から90分の時間で訪問をしています。

柴田氏「スタッフは訪問を終えると、その日の状況を私に報告します。患者の容態だけでなく、本人や家族との会話や今後の対応、スケジュールの調整まで、しっかり情報を共有するとともに、個々の支援を振り返り、整理しながら記録にとどめています。最近 iPad (アイパッド) を導入しましたので記録も素早くできるようになり、情報が訪問先でもわかるようになりました。とても使いやすく上手に活用し仕事ができていると思います。」

在宅看取りの現場から ～親から子へ、そして孫へ、いのちのつながりを感じながら～

日村氏「訪問看護師は病院での業務と多少違うところがあるのかと思いますが、訪問看護師としての仕事のやりがいをごんごんに（ごんごんに）感じておられますか？」

柴田氏「最初にも話しましたが、やはり訪問看護師はその方の一生に関わるというところ、その方、ご家族の人生、大切な時間に寄り添って支援をさせていただいているというところに醍醐味を感じています。それはとても難しいことではありますが、訪問看護のやりがいにつながっている部分かなと思っています。」

日村氏「患者さんの状況は様々かと思いますが、患者さんとのかかわりの中で今までで印象的な出来事がありましたらご紹介いただけますか？」

柴田氏「私たちのステーションでは在宅での看取りを多くさせていただいています。在宅での療養場面では、“家に居られて良かった”という患者さんの思いや、“最後まで本人が望むように家で見てやれてよかったです”というご家族の言葉を聞かせていただいています。

ある患者さんの看取りでは、亡くなられた後しばらくして訪問した時に、ご家族から“仏壇の前に私たちがいくと孫と一緒に手を合わせて拜んでくれるんですよ”というお話をお聞きしました。悲しい出来事の後にも、残されたお孫さんに命の大切さが伝わったことを嬉しく思っておられる家族の思いを感じることが出来たり、感謝の言葉をいただいたりしたとき、支援ができてよかったなと思います。」



“在宅介護”、“在宅で看取ること”について

日村氏「これまで多くの在宅看取りにも関わってこられたと思いますが、その中で難しいと思われたことや困られたことはなかったでしょうか。」

柴田氏「長く在宅看取りにかかわり、注釈1花かたばみの会という在宅看取りに関する活動もしていますが、そういう方たちと関わりの中で難しいと思うのは、『最後まで家で』と在宅での看取りを希望された場合でも、例えば痛みがなかなか取れない時など、どことどのようにつながって支援するといいいのか、病院との連携など特に医療ケアについて、どのように多職種と関わればいいのかということに難しさを感じることがあります。

しかし、10年前に比べると、現在は多職種とつながりやすくなってきています。また私たちが家族の思いを聞きながらしっかりと向き合っていけば、最期まで住み慣れた場所で過ごし、希望される看取りができるようになってきていると強く感じるようになりました。」

注釈1「花かたばみ（あなたと共に）の会」

「身近な人に囲まれて自宅で最期を迎えたい」という願う方々、介護者の支えとなり、その願いが実現できるよう、介護者同士の交流（現在介護されている方、介護されていた方、どなたでも参加できます）、看取りに関する情報発信、会報の発行、講演会の開催などを行っています。

湖東地域の多職種連携

日村氏「在宅療養においてご家族だけで、患者さんの苦しみや痛みを支えるというのは不安が大きいと思います。そういった不安はいろいろな職種、特に医師の介入など多職種が関わることで解消されるのではないかと思います。湖東圏域の在宅医療の現場における多職種の連携についてどのように感じておられますか。」



柴田氏「湖東圏域はとても多職種の連携がうまくいっているのではないかと考えています。ケアマネジャーさんが一生懸命に勉強され、多職種がつながり合えるように動いていただいていると強く感じています。ケアマネジャーさんを中心に訪問介護のヘルパーさん、訪問入浴、デイサービスのスタッフの方々、また福祉用具の方など、いろいろな専門職がつながっている中で、私たち訪問看護も一緒に動いていると考えています。」



日村氏「医療の介入だけでなく、介護との連携というのが在宅で看るうえで非常に重要ですし、ご家族の不安もいろんな方面からの支援が必要で支援があれば軽減できるということですね。」

これからますます発展させていただいて一人でも多くの方に在宅で療養が送れるような環境づくりができるといいですね。」

より質の高い訪問看護をめざして

日村氏「さて、柴田さんは滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会の支部長をなさっているということですが、組織や活動についてお聞かせください。」

柴田氏「滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会という組織の中で、湖東圏域は第5地区になりますが、月一回、協議会に加盟する各事業所の所長が集まって、それぞれの現状を報告し合ったり、県の協議会からの議案を相談したりしています。その中で、これからこの地域で訪問看護師がきちっと役割を果たせるように、今困っていることや情報交換等をしています。いろいろなやり方や考え方、つながり方を教えてもらうこともあり、同職種の方と出会い、話すことで成長し合っているのかなと思います。」

日村氏「いくつかの訪問看護ステーションがある中で、切磋琢磨しながら、よりレベルの高い、質の高い訪問看護を目指しているということで、今後も益々活躍していただきたいと思います。」

湖東圏域（彦根市・愛知郡・犬上郡）の訪問看護ステーション

（令和1年6月現在、サテライトを除く）

【彦根市】

彦根市立病院訪問看護ステーションほほえみ
友仁訪問看護ステーションすずらん
豊郷病院訪問看護ステーション レインボウひこね
ニチケアセンター大藪 訪問看護ステーション
訪問看護ステーションふれんず
訪問看護ステーションさと彦根
訪問看護ステーションすずらん高宮
訪問看護 じゅう楽
訪問看護ステーション ケイパハウス

【愛荘町】

豊郷病院訪問看護ステーション レインボウはたしょう
訪問看護ステーション 輝-ひかり-

【豊郷町】

豊郷病院訪問看護ステーション レインボウとよさと



これからの夢

日村氏「では最後に、柴田さん自身がこの地域でこういうことをしたいな、こういう風になればいいなという夢などがあればお聞かせください。」

柴田氏「現在、在宅医療はどうしても高齢者に偏ってしまっています。今、訪問看護では、子供たちや障害を持った方たち、難病の方たちとも関わっていますので、在宅医療がすべての方達への支援につながればいいなと思っています。そのためには、障害福祉の分野の方やいろいろな方面とつながっていくということ、もう一歩進めていかなければならないことだと思っています。そして、その支援の中で、“訪問看護があつてよかった”とっていただける方が少しでも増えればいいなと思っています。」

日村氏「在宅医療のすばらしさを高齢者の方だけではなく障害を持つ子供たちにも広げていきたいという夢があるということですね。これからも湖東地域の在宅医療や介護の推進に向けてご協力いただきますようよろしくお願いいたします。」



編集後記

訪問看護ステーションでは緊急対応もあり、24時間365日、大変お忙しくされている柴田さん。リフレッシュは、『ひとりカラオケ♪』と、お子様とおいしいピザを食べながら過ごす癒しの時、そして渡岸寺(長浜市高月)十一面観音様へのお参りとお聞きしました。

座右の銘は、宮澤賢治の『雨ニモマケズ』。訪問看護ステーションにもその詩を飾り、日々心に留めながらお仕事をされているとのこと。

これからも、より多くの方が地域の中で安心して療養生活が継続できるように、あたたかな看護とすてきな笑顔を届けてくださいますよう、よろしくお願いいたします。

(A (^ ω ^))